

Relay Interview!

女性研究者によるリレーインタビュー

テーマ：女性研究者のリーダー育成

和歌山大学 学長補佐
男女共同参画推進室長、経済学部教授
金川 めぐみ



金川 めぐみ教授



リケジョ推進の取り組み

Question 01 女性研究者のリーダー像とは

学会活動や学内外での交流を通じ、魅力的な女性研究者の方々に出会ってきました。その中でも私が目指すリーダー像のおひとりとして、古橋エツ子花園大学名誉教授を挙げさせていただきます。スウェーデンの社会保障を研究されておられる先生ですが、ご自身の研究のみならず、女性研究者の地位向上にも積極的に関わられたアクティブで魅力的な先生です。後進の女性研究者についても常に気にかけてくださる限りない優しさも併せ持たれています。先生の活動そのものに刺激と影響を大いに受けています。

Question 02 女性研究者のリーダー育成のためのご活動は？

本学でのリーダー育成の活動の中から、特に2点をご紹介します。1点目は、男女共同参画推進室のHPより「和歌山大学の女性教員によるミニ講義」を公開し、女性教員の研究活動を周知しています。理系・文系の女性研究者の研究への取り組みや研究職を選んだ理由などの質問コーナーも盛り込んだ動画です。女性研究者の様々なロールモデルを動画から学ぶことができるものです。2点目は、本学システム工学部で行われている理系女子（リケジョ）推進の取り組みです。学年や専攻を超えて、タテとヨコのつながりをつくることをめざした取り組みを通じて、理系へ進学する女性の増加を通じ、理系分野でのリーダー育成のための活動を進めています。

Question 03 女性研究者へのメッセージをお願いします。

自分だけで頑張る、というのではなく、常に「つながり」を大事にしていきたいです。研究・教育・学内運営・対外的な活動、いずれにおいても、困難なことこそ一人で解決できるわけはありません。そして特に女性研究者同士でのつながりから、様々な助力やヒントが得られることが多いと、自身の研究人生からも思います。長期的な視野での人脈やネットワークのつながりを大切にしていきたいと思います。



12月 Event Schedule

2 fri

第6回女性研究者研究発表交流会

場所：オンライン 時間：13:30~15:30
主催：積水ハウス株式会社 共催：大阪公立大学、大阪教育大学、和歌山大学、南近畿女性研究者支援ネットワーク

〈プログラム内容〉

1. 対談
「女性研究者のキャリアデザインについて～自分らしさを発揮しながら、キャリアとライフを充実させる働き方～」
同志社大学 学長 植木 朝子
積水ハウス株式会社 執行役員 住生活研究所長 河崎 由美子
2. 産学官連携ウィメンズユニット（WUSO）研究発表
「住まいにおける子どものオンライン学習に関する研究」
大阪公立大学 経済学研究科 教授 杉田 菜穂
積水ハウス株式会社 住生活研究所 山崎 美波
3. パネルディスカッション「産学官連携の経験を活かした 研究者のキャリアアップ」
モデレーター：杉田 菜穂
パネリスト：田中 真秀（大阪教育大学 高度教職開発系 准教授）
林 聡子（和歌山大学 システム工学部 准教授）
室崎 千重（奈良女子大学 生活環境学部住環境学科 准教授）
服部 正子（積水ハウス株式会社 住生活研究所 スペシャリスト）

14 wed

令和4年度 知る・学ぶ・伝える equality 連続講座 第1回「男女共同参画は何を変えるか？」

講師：上野 千鶴子（社会学者・東京大学名誉教授、認定NPO法人ウィメンズアクション（WAN）理事長）

場所：オンライン・オンデマンド
時間：13:00~14:30
主催：奈良女子大学 男女共同参画推進機構、ダイバーシティ推進センター
共催：奈良市、奈良女子大学 社会連携センター、南近畿女性研究者支援ネットワーク
後援：奈良県

16 fri

研究力向上のためのスキルアップ支援プログラム マネジメント・セミナー

講師：松尾 久美子（株式会社マーブルイノベーション）
場所：オンライン 時間：13:30~16:30
主催：大阪公立大学
共催：大阪教育大学、和歌山大学、積水ハウス株式会社



文部科学省科学技術人材育成費補助事業

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)



HP: <https://diversity-oows.jp>

連携機関

代表機関
公立大学法人大阪 大阪公立大学

共同実施機関

国立大学法人 大阪教育大学
国立大学法人 和歌山大学
積水ハウス株式会社

*大学統合により大阪市立大学は大阪公立大学に名称変更いたしました。

ニュースレターに関するお問い合わせ

大阪公立大学女性研究者支援室
〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138
Tel: 06-6605-3661
E-mail: kensi-ocu-support-f@list.osaka-cu.ac.jp
HP: <https://www.omu.ac.jp/r-support/>

発行：2022年11月

News Letter

VOL.11

大阪公立大学

大阪教育大学

和歌山大学

積水ハウス株式会社

特集

2022年4月、岡本幾子先生が大阪教育大学学長にご就任されました。そこで、岡本新学長ご自身の研究活動やキャリアパス、就任から現在までの大学運営や今後のビジョンなどについて、金澤真理大阪公立大学副学長がお話を伺いました。



岡本幾子 大阪教育大学学長

岡本 幾子（おかもと いくこ）

現職：国立大学法人大阪教育大学学長（2022.4～）。
県立広島女子大学家政学部被服学科卒。
大阪市立大学大学院生活科学研究科後期博士課程単位取得満期退学。
学術博士。



金澤先生 大阪市立大学生生活科学研究科のご出身ということで、進路選択について伺いたいのですが。

岡本学長 有機化学が好きで、染料や染色に興味をもつようになり、自宅から通えて、染色を学ぶことが出来る学部がある広島県立女子大学（現、県立広島大学）に入りました。その後、大阪市立大学大学院に進みました。もう一つ県立女子大学を志望した理由として、高校時代の信頼している先生に、「化学は好きだけど、他の分野はあまり好きではないので、この大学に進みたい」と伝えたら、「それはいいね」と一言、言われました。自分のことをよく知ってくださっている人に、太鼓判を押してもらったので、これでいいのだと思ったことを覚えています。大学時代、卒論の指導をしていただいたと考えていた先生に、染色の研究がしたいと伝えたところ、3回生の夏、京都にある田中直染料店に先生が紹介状を書いてくださり、夏休みの1ヵ月間、その研究室でお世話になりました。今思えばインターンシップ的なことを経験したのだと思います。「植物染料も試験布も媒染剤も自由に使っていい」と言われる環境に身を置きました。実験は失敗することもありましたが、なぜ失敗したかを当時の研究室長が教えてくださいました。「それをやっちゃだめ」とは言わず、失敗を受けとめてくださった。この経験で研究の楽しさを味わい、大学院に進みたいという思いが生まれました。ドクター3回生が終わる頃に、大阪教育大学で教員の募集があり、4月に助手として採用されました。助手の期間中、週に1日いただける研究日を利用して大阪市立大学に通い、8年後に学位を取得しました。

金澤先生 岡本先生にとって、岐路となる要素所であるような出会いがあり、それぞれ、他の人からなかなか受けられないような貴重なアドバイスを得られたんですね。でも、そこに至るには、先生ご自身の知的好奇心、こう研究したいという目標が明確だった。だからこそ、的確なアドバイスができ、また、それを積極的に受け入れられたのだと思います。

岡本学長 先生になった時には、学生も含めて人を「しっかり見る」ということが大切だと思います。

「見る」ことによって、その個人の可能性を、第三者の視点で見出す可能性があると思います。学生のみならず自分から積極的に相談して欲しいです。私の学生の頃からすると、今は環境的に随分整ってきている。でも、それを情報として知っておかないと行動につながらない。



金澤真理 副学長

金澤先生 先生は、比較的早く大学運営の方に携わられているということを知りました。学長や副学長とのよい関係を作ったり、具体的には引っ張ってくださった、背中を押してくださったりする、メンターのような方や制度が貴学にはあったのではないかと思うのですが、実際に、学長職につかれた時のことを具体的にお話いただけますでしょうか。

岡本学長 これも人のつながりから始まっています。若いころ、学内の自主的な勉強会に参加をした時期がありました。異分野の教員が集まって自分の専門領域の話をする。専門の詳しい内容は分からないこともあるけれど、話のテーマに関して、いろんな角度から、盛り上げていこうというような会で、早くから異分野の方と色々お話しができる環境にありました。その時のメンバーの一人が3代前の学長で、まずは施設マネジメントの学長補佐をやってみないかと勧められ、大学の運営に関わらせていただき、少しずつ大学運営の勉強を重ねて行きました。研究活動とは、全く別の学内活動をするというのは、若いうちでも中堅になっても大切だと思います。育ててくださった諸先輩は、「女性だから」という観点ではなく、「一緒に仕事をしよう」と誘ってくださるタイプの方だったので、先輩方が本学におけるダイバーシティ推進のパイオニアだったのだと思います。

金澤先生 そういうことが大事ですね。多様性を活かせるような雰囲気の中で信頼関係とか、人間関係とかを培っておられたらどう感じます。今度のご苦勞された話も伺っていたいのですが。

岡本学長 困難だったことは、「準備が充分できていない状況でも仕事としてしなくてはいけない時」は大変でしたが、誰でも初めてのことはあるわけです。サポートする体制を組織して、チームで切り抜けていくことが出来ることを経験を通して知ることができました。

金澤先生 いいチーム、サポート体制が作られていて、それが脈々と受け継がれているように感じます。では、これから重点的に取り組もうとしていることがあれば、是非教えていただきたいと思います。

岡本学長 4月に着任するにあたり、まずはバランスがいい年代層の組織を作ろうと心がけました。男女関係なく、できるだけ若い方、そして女性、部局のバランスを考えながら、体制を考えました。次の世代にも育っていただくために、できるだけ多くの方に様々な経験をさせていただきたいので、可能な範囲で、入れ替わりながら、経験を広く積んでいただく機会を作っていきたいと考えています。

金澤先生 最後の質問になるのですが、今後、貴学が特に教育大学として取り組もうとされていることや、社会に期待される役割というのをどのように受け止めておられているのかということについて、伺いたいと思います。

岡本学長 令和4年3月、文部科学大臣より「教員養成フラッグシップ大学」の指定を受けました。構想の中に、ダイバーシティ教育の導入があります。これは全学必修で、本学で学んだ学生は教員になると、企業等に就職しよう、このダイバーシティの考え方を、基本（教養）として学んだ人材を育てていこうという取組みです。シラバスでも今年度からダイバーシティの観点に配慮した授業作りの項目を設け、教員も学生も全員、本学の授業に対する考え方を共有する仕組みを取り入れています。

天王寺キャンパスに、令和6年4月、大阪市教育委員会と本学とで共同して建設する「みらい教育共創館（仮称）」が完成します。1階から5階が本学の施設で、6階から10階に、大阪市総合教育センターが入る予定です。実質的な産官学連携による学校教育高度化プロジェクト事業の拠点となる施設で、この建物にはオールジェンダートイレを設置の予定です。

金澤先生 長時間本当にいろいろなお話を伺っていただきました。今後も様々な形で連携させていただきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

2022年度 連携型共同研究助成採択課題が 決定しました！

連携型共同研究助成とは・・・

連携機関（大阪公立大学・大阪教育大学・和歌山大学・積水ハウス株式会社）における女性研究者の研究力向上や南近畿の研究ネットワークの拡大を図るため、女性研究者PI（共同研究代表者）による共同研究に対して、研究費の助成を実施しています。

今年度は18件の課題が採択されました！ 大阪公立大学…9件 大阪教育大学…5件 和歌山大学…2件 積水ハウス株式会社…1件 帝塚山大学…1件

文部科学省補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」2022年度 連携型共同研究助成 採択者一覧

代表者（所属 職名）	研究課題	共同研究者（所属 職名）
大阪公立大学		
岩崎 昌子 理学研究科 准教授	機械学習を用いた物理学実験シミュレーターの基礎開発	深澤 優子 大阪教育大学 教育学部 准教授 住濱 水季 岐阜大学 教育学部 准教授/大阪大学 核物理研究センター 特任准教授 谷口 七重 高エネルギー加速器研究機構 素粒子原子核研究所 助教
藤井 律子 人工光合成研究センター 准教授	光の波長に応答した光合成アンテナ超複合体の形成挙動の解明	荒木 良一 和歌山大学 教育学部 准教授 竹田 恵美 大阪公立大学 理学研究科 准教授
三枝 栄子 理学研究科 講師	高いエネルギー効率を可能にする発光性ランタノイド錯体の合成	林 聡子 和歌山大学 システム工学部 准教授
出口 美輪子 生活科学研究科 特任助教	パラアスリートへのオーダーメイド型栄養サポートを可能にするエネルギー消費量の推定方法の確立	横山 久代 大阪公立大学都市健康・スポーツ研究センター 教授 本宮 暢子 大阪公立大学 生活科学研究科 特任教授 山崎 祐子 大阪公立大学 医学研究科 講師 鉄口 宗弘 大阪教育大学 教育学部 教授
小関 珠音 都市経営研究科 准教授	工業地域の再生と「豊穡化の経済」一場所の記憶、ツーリズム、コミュニティ、エコシステム	藤田 和史 和歌山大学 経済学部 准教授 立見 淳哉 大阪公立大学 経営学研究科 教授
吉田 朋子 人工光合成研究センター 教授	XAFS測定システムの構築と反応中の人工光合成光触媒その場分析	矢嶋 摂子 和歌山大学 システム工学部 教授 門 晋平 和歌山大学 システム工学部 助教
福村 智恵 生活科学研究科 准教授	地域連携食育ネットワークにおけるICTを活用した児童生徒の食育プログラムの実施と評価	早見 直美 大阪公立大学 生活科学研究科 講師 西川 章江 大阪教育大学 教育学部 准教授 横山 久代 大阪公立大学 都市健康・スポーツ研究センター 教授 鶴川 重和 大阪公立大学 生活科学研究科 准教授
玉城 明子 文学研究科 特任講師	すべての子どもの学力保障に向けての方策—大阪の同和教育・人権教育の実践資料分析を通して—	佐久間 敦史 大阪教育大学 地域連携・教育推進センター 准教授 齋藤 直子 大阪教育大学 地域連携・教育推進センター 特任准教授
菅原 真弓 文学研究科 教授	阪和地域の「文化資源」発掘と検証、記録に関する研究	木川 剛志 和歌山大学 観光学部 教授 増田 聡 大阪公立大学 文学研究科 教授
大阪教育大学		
岡崎 純子 教育学部 教授	島嶼における訪花昆虫相シフトは蜜分泌特性の分化をもたらすのか；形態変異と蜜分泌の相対成長解明	名波 哲 大阪公立大学 理学研究科 准教授
西川 章江 教育学部 准教授	外国人留学生向け日本文化体験プログラムの支援活動を通じた大学生の生活文化理解に関する研究	碓田 智子 大阪教育大学 教育学部 教授 米澤 千晶 大阪教育大学 教育学部 特任講師 小池 志保子 大阪公立大学 生活科学研究科 准教授
田中 真秀 連合教職実践研究科 准教授	コロナ禍のカリキュラムマネジメントにおける学校の個性とそれを支える教育委員会の指導・助言・援助	田村 知子 大阪教育大学 連合教職実践研究科 教授 田中 満公子 大阪教育大学 連合教職実践研究科 特任教授 岡田 和子 大阪教育大学 連合教職実践研究科 特任教授 佃 千春 大阪教育大学 学務部教務課 特命職員 木原 俊行 大阪教育大学 連合教職実践研究科 教授 陸奥田 維彦 大阪教育大学 連合教職実践研究科 特任教授 島田 希 大阪公立大学 文学研究科 准教授
出野 文莉 教育学部 准教授	中国の筆法から学ぶ書写・書道教材開発の試み	大岩本 幸次 大阪公立大学 文学研究科 教授
渡邊 美香 教育学部 准教授	ウェブ教材を用いた美術教育実践データの収集と検証—美術鑑賞活動の行動観記録をもとにした経験の共有を中心に—	青木 宏子 大阪教育大学 教育学部 非常勤講師 高橋 暁生 積水ハウス株式会社 ESG経営推進本部 美術館事業室 絹谷幸二天空美術館研究員 加藤 可奈衛 大阪教育大学 教育学部 教授
和歌山大学		
秋元 郁子 システム工学部 准教授	半導体結晶にトラップされた電子・正孔スピンの空間分布解析	松岡 秀人 大阪公立大学 理学研究科/研究基盤共用センター 特任准教授
上野 智子 教育学部 准教授	特別支援学校音楽科における「即興表現」のための教材開発：音楽に付随するエンカレッジな機能に着目して	菅 道子 和歌山大学 教育学部 教授 山崎 由可里 和歌山大学 教育学部 教授 沼田 里衣 大阪公立大学 文学研究科 准教授
積水ハウス株式会社		
山崎 美波 住生活研究所 社員	住まいにおける子どものオンライン学習に関する研究	杉田 菜穂 大阪公立大学 経済学研究科 教授 木野村 昭彦 積水ハウス株式会社 住生活研究所 スペシャリスト 秋山 寿美江 積水ハウス株式会社 住生活研究所 スペシャリスト 服部 正子 積水ハウス株式会社 住生活研究所 スペシャリスト 津江 大志 積水ハウス株式会社 住生活研究所 社員 国吉 真夕 積水ハウス株式会社 住生活研究所 社員
帝塚山大学		
辻川 ひとみ 現代生活学部 教授	保育施設の室内環境に関する研究—線路沿いに立地する保育施設の事例—	鍋島 美奈子 大阪公立大学 工学研究科 教授 西村 真実 帝塚山大学 教育学部 准教授 木村 均 帝塚山大学 現代生活学部 准教授 吉住 優子 帝塚山大学 現代生活学部 研究員

01

研究力向上のための 外部資金獲得セミナー

2022年7月5日（火）オンライン開催

女性研究者の研究力向上を目指し、外部資金（科研費）獲得に向けたセミナーを行いました。本年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、Zoomにて開催し、合計100名が受講しました。講師にはロバスト・ジャパン株式会社を迎え、より具体的な研究計画調書作成に関するレクチャーを受けました。加えて、良い事例、悪い事例を踏まえ、文系理系それぞれに適した建設的な戦略の立て方など、獲得を見越した実践的なワークに取り組みました。また、個別支援として、ロバスト・ジャパン株式会社によるオンライン面談を実施しました。



02

第3回 南近畿女性研究者支援ネットワーク会議開催

2022年7月27日（水）オンライン開催

南近畿女性研究者支援ネットワーク参加機関の皆様が一堂に会し、意見交換を行いました。昨年8月から大阪商工会議所が加盟し、産学連携を一層進めています。会議では、3本の柱である、「ダイバーシティ研究環境整備」・「研究力向上・リーダー育成」・「上位職登用促進」について各機関の取り組みを共有しました。



構成団体 (順不同)

大阪公立大学・大阪教育大学・和歌山大学・積水ハウス株式会社・奈良女子大学・畿央大学
奈良先端科学技術大学院大学・奈良県立大学・帝塚山大学・南大阪地域大学コンソーシアム・大阪商工会議所

03

令和4年度 和歌山大学ダイバーシティ研修「DV・デートDVと大学での支援体制」

2022年9月6日（火）Zoom開催

和歌山大学主催による「DV・デートDVと大学での支援体制」を開催しました。ダイバーシティ連携機関に加え、南近畿女性研究者支援ネットワーク（11大学・機関）が共催し、Zoomを使ったオンデマンド研修に93名が参加しました。

講師には、DV加害者プログラム・NOVO（ノボ）運営者の伊田広行氏をお招きし、「デートDVへの予防教育の重要性—ダイバーシティの理解と絡めて」と題して講演いただきました。伊田先生からは、ダイバーシティ（多様性）の理解において、多数派（＝普通）が少数派（＝違いを持つ人）を別の「例外」として「理解」「認める」「包摂する」のではなく、「皆がそれぞれ異なっている」視点で連続的にとらえる認識や態度の変革が必要であると説明がありました。カップルだから一緒（同意）が当たり前という「スクランブルエッグ」的発想から、恋人や家族や親友でも一人一人は別々という「2つのゆで卵」という、違いを尊重するシングル単位の考え方の説明があり、多くの受講者の共感を得ていました。その後、ニュース等では報じられることの少ない実際の被害事例の被害者と加害者の感情と行動について解説があり、参加者からは、予防教育や大学での関わり（フォロー体制）が重要だが、これをどのように取り組むかが課題との意見もあり、関心の高さを示す感想が寄せられました。

